

 新しい世界は面白い、留学に是非チャレンジを

人文社会学科 4年 劉勁詩

2014年2月から中国の名門、浙江大学に1年間留学しました。上海から新幹線で南方に1時間半くらいの浙江省杭州市に位置しています。

日本を立ち、大学の寮へ到着するまでは大変でした。バスなどの乗り換えなどもあります。事前に交通の経路をしっかりと調べておいた方が無難です。大変だということは、その分自分を鍛えるチャンスでもあります。

留学生専用の寮に入りました。アジアや欧米などから学生が来ており、最も多かったのは韓国からでした。頻繁に催される食事会を通じて世界各国の文化や中国に対する見方などを知ることで世界観を広げることができ、とても良かったです。邦人留学生もいて生活や学習面でなども手伝ってくれました。毎日がとても楽しかったです。

日本在住10年ですが、中国語には不自由しません。このため、現地の学生と同じ授業を履修しました。講義は、1コマ45分。午後9時55分までの授業もありました。

専門の経済の授業を履修しました。専門性が高く、ついていくのに必死でした。

履修した講義は、①不動産金融と経済②国際物流③社会分析④近代日中関係⑤日本アニメ文化鑑賞⑥中国経済解説⑦日本翻訳理論と実践⑧日本文学ーなど。

頑張っている姿を先生から高く評価されたときはとても嬉しく、国に関係なく、努力すれば必ず報われると信じるようになりました。



留学中は、さまざまな活動に参加しました。3ヶ月の夏休みでは、中国最大の旅行会社で3か月インターンシップをしました。インターンシップといっても日本と違い、1か月1500元（日本円で3万円程度）の支給がありました。

この参加のための試験があり、ウェブサイトの英日の記事の翻訳やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの知識が試されました。

配属されたのは、国際業務事業で、日本市場開発担当のウェブサイトの運用でした。仕事は、こなせば、より責任のあるポストを任せるのが会社の方針で、スピードが早く、毎日2時間残業しました。社会の現実を実感し、生きるということがどれだけ大変なことかを少しばかり理解できたと思っております。

今後の進路を自覚すると同時に、自分の強みを知ることができました。もっとも、一番学んだのは、「まだまだ卒業したくない」「まだ学生でいたい」ということでした。

対外交流協会というサークルに所属しました。これにも面接があって合格率 30%の狭き門でした。基本的に外部に向けた活動でした。

思い出に残っているのが、浙江大学の学生と留学生が交流を深めるために企画した「中外音楽祭」です。



中身は、①中国人学生と留学生の 5 ペアによる音楽パフォーマンスの対決②米英韓仏日中の 6 カ国の国別チームの対決—でした。宣伝を大学内の放送やネット上で情報を発信したほか、ビラを 2000 枚配り、各寮の広告欄にもポスターを張るなど準備に 1 ヶ月を要しました。

この種のイベントは、中国で珍しいためか 600 人の観客や先生を動員でき、成功を収めました。組織の動かし方や時間の管理と仕事の分配の方法をこの経験を通じて知ることができました。勉強はもちろん、まだまだ学ぶべきことが沢山あると思いました。

協会の活動の中で、浙江大の日本語学部生と共同で日中文化交流協会を立ち上げ、副代表に就任。日本語アフレコ大会や中日交流会など開きました。

日本文化は中国に大きな影響を及ぼしています。交流があってからこそ中日友好につながると確信しています。浙江大へ行く機会があれば、是非この活動に参加して欲しいです。

留学で両国の人々と触れ合い、交流の重要さをあらためて実感しました。交流とは自分自身の目で見て、体で体験することです。これなしでは友好には繋がりません。日中関係が厳しい時だからこそ交流と相互理解の促進が重要です。

報道されていることと自分の目で見る中国は異なります。中国の人々の現実の姿を知るには交流が必要です。経済大国日本と中国の学生たちが強い絆で結ばれることで、個人だけでなくそれぞれの国にとっても大きな財産になると確信しています。

中国についてもっと知ってみませんか。まずは行動することからです。中国に留学することで自分の世界観



を確実に広げることができます。新しい世界はとても面白いです。ぜひ、中国への留学にチャレンジしてみてください。

(了)